

## 2022年度「データサイエンス・AI概論」の自己点検・評価について

文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」において求められている項目に従い、2022年度「データサイエンス・AI概論」の自己点検・評価を行う。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>本プログラムの履修・修得状況については、データサイエンスセンター事務局が適宜データを確認のうえ、データサイエンスセンター運営委員会において報告を行っている。</p> <p>本プログラムの修了要件は、「データサイエンス・AI概論」2単位を修得することとしており、令和4年度の履修・修得状況は、履修者数4019名（前期：2977名、後期1042名）、修了者数3485名（前期2646名、後期839名）であった。</p>
学修成果	<p>本学では、各学部学科の教育課程編成・実施の方針に基づき立てられた授業計画の実施状況について、「授業改善のためのアンケート」を学生に実施しており、本プログラムの授業科目についても同様に実施している。</p> <p>アンケートのうち、「学生自身が本プログラムの科目で設定した到達目標を到達したと思うか」等の項目を本学の他科目と比較し分析することによって、令和4年度においては、学修成果が適正であることを確認した。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>「授業改善のためのアンケート」を実施し、データサイエンスセンターが授業担当教員と連携し、「難易度」、「説明のわかりやすさ」、「シラバスに記載された到達目標に到達したか」等の項目を分析し、学生の理解度について点検している。</p> <p>また、教育支援システム（LMS）を活用することで、授業内で行っている小テストや課題への回答状況を把握することができ、アンケートの分析結果と併せて、適宜、内容の見直しを行っている。</p> <p>令和4年度においては、前期に実施した授業科目を振り返り、小テストの難易度、回答時間、講義資料の提供等について再検討し、後期の授業に反映した。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>「授業改善のためのアンケート」をもとに、「授業の良かった点・改善してほしい点」等を確認し、改善を図ることで、他の学生への推奨度向上に努めている。</p> <p>また、データサイエンスセンターにおいて、本プログラムとは別に、産業界、外部研究機関の協力を得て、全学を対象とした正課外のセミナーを開催（令和4年度：6回開催）している。その内容は、データサイエンスへの興味関心や今後のモチベーションアップに繋げることを目指す内容となっており、本プログラムへの学生の関心をいざなうものとなっている。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
全学的な履修者数、履修率 向上に向けた計画の達成・ 進捗状況	<p>本プログラムの対象授業科目を、すべての学生が身に付けるべき新たな時代の教養教育と位置づけ、一般教養科目に配置することで、全学的な履修者数の向上を図った。</p> <p>また、全学部学科の学生が履修しやすい曜日・時間帯に授業科目を配置した。</p> <p>その結果、令和4年度においては、全学部学科において履修者がいることを確認し、標準履修学年が1～2年生の授業科目であるが履修率25%を達成することができた。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>データサイエンスセンターでは、本学学生が教育・研究で得た知識を、社会で役立つ実効性の高いスキルとして身に付ける場として、キャリア形成支援活動を企業等と連携し実施している。活動への学生の意欲は高く、企業等からも高い評価を得ている。本プログラムは、令和4年度から開始され、標準履修学年を1～2年生としているため、修了者の進路、活躍状況、企業等の評価については、直接的に得られていないが、今後の課題として検討を行う予定である。</p> <p>また、本学学部卒業生を対象とした「卒業生アンケート」等において、進路、活躍状況等を把握していくことも検討している。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>本プログラムの授業科目では、社会におけるデータ活用、AI技術の動向について、外部講師による講義を取り入れており、産業界からの視点を含めた内容となっている。</p> <p>また、学外の学識経験者からなるデータサイエンスセンターアドバイザー委員会において、本プログラムの評価及び指導助言を得ており、リテラシーレベルのプログラムとして申し分ない旨の評価をいただいた。今後、委員会での意見については、カリキュラムの改善等に活用していく予定である。</p>
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	<p>本プログラムの授業科目では、単に数理・データサイエンス・AIの基礎的な知識の習得に留まらず、倫理問題を含むデータサイエンス人材の心得、政治学や経済学と絡めた社会におけるデータ活用を含めた内容とすることで、データをもとに適切に事象を捉え、分析・説明できる力を修得できる、いわゆるデータ思考の涵養を促している。</p>
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	<p>データサイエンスセンターのもとに設置した学内の委員で構成する運営委員会において、自己点検・評価を行い、教授する内容・水準の維持・向上を行っている。</p> <p>また、学生を対象とした「授業改善のためのアンケート」や学外のアドバイザー委員会からの意見、数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムの動向を把握し、改善に役立てている。</p>